

# LOCALBASE セットアップマニュアル

森 洋久

joshua @ globalbase.org

中島 智人

nakajima @ zeta.co.jp

株式会社ゼータ

2006-07-26 版

# 目次

第 1 章	はじめに	3
1.1	目的と概要	3
1.2	このマニュアルを読むために必要な知識	3
1.3	前提となるシステム要件	3
1.4	HTTP-GATEWAY と gbview エージェントの動き	4
1.5	LOCALBASE 編集機能	4
1.6	LOCALBASE サーバの構成に関する注意事項	4
第 2 章	LOCALBASE のデフォルトのインストール方法 (閲覧システムのみ)	6
2.1	概要	6
2.2	この作業の前提となるシステム要件	6
2.3	パッケージの準備	6
2.4	gbview のセットアップ	7
2.5	httpagent の設定	7
2.6	-	7
2.7	HTTP-GATEWAY の設定	8
2.8	Apache の設定	8
2.9	HTTP-GATEWAY と xl サーバの接続	9
2.10	最終確認	9
第 3 章	プロットデータ編集機能のインストール	11
3.1	概要	11
3.2	この作業の前提となるシステム要件	11
3.3	vct ファイルの選定	11
3.4	vct ファイルの設定	11
3.5	gbview の条件レイヤ設定確認	14
3.6	gbview の条件レイヤの設定	14
3.7	gbview の座標系識別子の設定の確認	15
3.8	gbview の再起動	16
3.9	HTTP-GATEWAY の設定変更	16
3.10	HTTP-GATEWAY の設定変更 (レイヤの追加)	16
3.11	HTTP-GATEWAY の設定変更 (vct ファイル選択メニューの追加)	17
3.12	最終確認	17
第 4 章	複数の異なる設定の HTTP-GATEWAY と gbview をつなぐ方法	19
4.1	概要	19
4.2	この作業の前提となるシステム要件	19
4.3	現在の設定の確認	19
4.4	新しい設定の追加	20

4.5	エイリアスの設定 . . . . .	21
4.6	GB サーバの再起動 . . . . .	22
4.7	HTTP-GATEWAY の設定の複製 . . . . .	22
4.8	最終確認 . . . . .	23

# 第1章 はじめに

## 1.1 目的と概要

WWW から GLOBALBASE のコンテンツを閲覧可能にする LOCALBASE のセットアップ方法について説明する。LOCALBASE は GLOBALBASE がわの gbview エージェント [1]、および、WWW 側の HTTP-GATEWAY [2] の組み合わせで実現される物であり、詳しくは、両方のリファレンスマニュアルを参照してください。

## 1.2 このマニュアルを読むために必要な知識

このマニュアルを読む場合には、xl スクリプト [UNDEF REF (xl-lang)] および、xl サーバ [?] の知識を必要とします。また、GLOBALBASE の座標系の検索、重ね合わせの原理について概略をわかっている必要があります。デフォルトのインストールはそれほど完璧な知識を求めません。これらお他のエージェントなどのマニュアルを片手に、デフォルトのインストールからステップバイステップで、徐々に知識を増やして行くことをお勧めします。これらの技術的理解については、GLOBALBASE 技術資料 [UNDEF REF (GLOBALBASE-tech)] を参照してください。サーバの知識などに薄い場合は、COSMOS GLOBALBASE VIEWER [3] を動かしてみることをお勧めします。

また、HTTP-GATEWAY は WWW 上で動作します。また、ほんシステムは apache を想定しているので apache の知識が必要です。以下の関連知識を持っている事を前提として記述されています。

1. XML 記述用語に関する知識
2. 初歩的な perl スクリプトに関する知識
3. 初歩的な CGI に関する知識
4. 初歩的な HTTP に関する知識
5. 初歩的な HTML に関する知識

## 1.3 前提となるシステム要件

- perl5 以降の cgi が実行可能な Web サーバ

現在 Apache/2.0.49 上での動作確認が行われています。本ドキュメントの設定例は、全て Apache を使用した場合の設定例とします。設置の際、cgi 実行が行えるディレクトリにファイルを設置する権限が必要となります。

- 接続先 GLOBALBASE サーバ

バージョン ver.B.b11 以降の LANDSCAPE GLOBALBASE SERVER [4] のインストールされたマシンが必要です。

## 1.4 HTTP-GATEWAY と gbview エージェントの動き

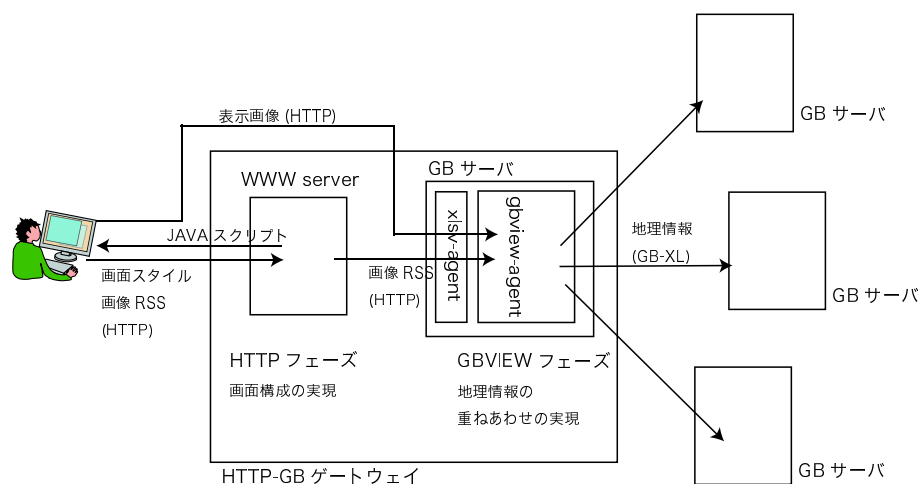


図 1.1: HTTP-GATEWAY の構造

図 1.1 に GLOBALBASE のコンテンツを WWW ブラウザで閲覧可能にするために必要なシステムの概要を示した。

HTTP ゲートウェイは WWW ブラウザからの HTTP による地図や巨大画像表示リクエストに応じて、GB サーバ群をアクセスし、重ねあわせ処理をし、クライアント側に結果を返す仕組みでる。

ゲートウェイは2つのフェーズからなる。一つはクライアントの要求を HTTP により受け止め、スタイルの設定などを行う、HTTP フェーズ。これは、WWW サーバ上で動作する。一方、実際に GB サーバをアクセスし、地図を重ねあわせ処理をする GBVIEW フェーズである。HTTP フェーズは apache などの WWW サーバ上で動作する。一方、GBVIEW フェーズは、GLOBALBASE サーバ上で動作する。xsl エージェント [?] は、HTTP による画像などのリクエストを XL スクリプトに変換し、バックで動作している、当該 gbview エージェントへ引き渡す。gbview エージェントは引き渡された XL スクリプトを解釈実行し、結果を xslv へ返す。xslv はそれを、HTTP の返答へ変換し、WWW サーバやブラウザへ返す。

## 1.5 LOCALBASE 編集機能

LOCALBASE には、簡単なプロットデータの編集機能がついています。本マニュアルでは、編集機能のインストール方法も説明します。インストール後の編集機能の利用方法に関しては、「LOCALBASE ユーザインタフェース・マニュアル [5]」を参照してください。

## 1.6 LOCALBASE サーバの構成に関する注意事項

前述のように、LOCALBASE は GLOBALBASE と HTTP-GATEWAY の両方を立ち上げる必要があります。また、クライアントとなる WWW ブラウザは HTTP のプロトコルで、その両方をアクセスします。そのため、二つのサーバのそれぞれのポートが外部から認識可能で無ければなりません。例えば、1 台のサーバで GLOBALBASE サーバと HTTP-GATEWAY (WWW サーバ) の両方を動作させようとした場合は、GLOBALBASE サーバをポート番号 8080、HTTP-GATEWAY (WWW サーバ) を 80 番ポートというように異なるポート番号に割り当てます。

もし、双方のサーバともに同じポート番号、たとえば 80 番に割り付けたいという場合が考えられます。たとえば、セキュリティー上 HTTP の通信は、80 番ポートのみしか許可されていないといった場合です。こういった場合は、サーバを 2 台用意し、それぞれに GLOBALBASE サーバ、HTTP-GATEWAY をインストールする必要があります。

一台のサーバで、しかもポート番号は 80 番しか使えない状況で、LOCALBASE を実現することは現在出来ません。将来的には HTTP-GATEWAY に、画像のアクセスについてもポートをリレーする機能を実装すれば、それは可能となるでしょう。

LOCALBASE は、GLOBALBASE のネットワーク上で公開されているすべてのコンテンツがセットアップの仕方によって WWW で閲覧可能です。しかし、編集機能を利用する場合、編集対象のデータは gbview エージェントと同じサーバ上に無ければなりません。なぜならば、編集対象を gbview エージェントがファイルとしてオープン出来る必要があるからです。

## 第2章 LOCALBASEのデフォルトのインストール方法 (閲覧システムのみ)

### 2.1 概要

ここでは、LOCALBASE のデフォルトのインストール方法を説明します。目標として、gbview エージェントの立ち上げと HTTP-GATEWAY の設定を行い、デフォルトで表示設定されている一つの古地図を表示するところまでとします。閲覧のみを行うためのインストールします。

### 2.2 この作業の前提となるシステム要件

#### 1. GLOBALBASE に関する要件

LANDSCAPE GLOBALBASE SERVER がインストールされている必要があります。まだインストールされていない場合は、「LANDSCAPE スタートアップ・マニュアル [4]」を参照してください。

当該インストールでは、ver.B.b10 以降のソースコードを利用することをお勧めします。

#### 2. WWW サーバに関する要件

HTTP-GATEWAY は WWW サーバ上で動作するので、すでに何らかの WWW が稼働している必要があります。WWW サーバは、必ずしも、GLOBALBASE xl サーバが動作しているマシンが同じである必要はありません。別々のマシンであっても、HTTP-GATEWAY から XL サーバへ TCP/IP プロトコルで接続可能であれば問題ありません。

LANDSCAPE と HTTP-GATEWAY サーバにそれぞれポート番号を割り振る必要があるので、[UNDEF REF TYPE (server-attention)(section)] を参照しながら、サーバの配置等は十分に吟味してください。

HTTP-GATEWAY は perl スクリプト、および当該言語で書かれた cgi が動作することが前提です。WWW サーバには、perl のインタプリタがインストールされており、さらに、cgi 動作が許可されているディレクトリにインストールすることが必須条件です。perl のインストール方法や WWW サーバの cgi の許可の仕方は、それぞれのマニュアルなどを参照してください。

### 2.3 パッケージの準備

ここでは、HTTP-GATEWAY 用のスクリプトのインストールから始めます。

インストールされている LANDSCAPE サーバが、ver.B.b11 以上である場合は、`/usr/local/xl-gbs/xlsample/www/gateway` にインストール用の HTTP-GATEWAY スクリプトが保管されています。それ以前のバージョンですと、GLOBALBASE ホームページよりソースコードをダウンロードしてください。ver.B.XX.XX.tar.gz というソースコードパッケージファイルをダウンロードし解凍します。その中の、ver.B.XX.XX/www というディレクトリの中に gateway というディレクトリがあります。これは、上述のディレクトリ gateway と同じものです。なお、ソースコードのダウンロードについては、別途、ダウンロードマニュアル [UNDEF REF (download)] を参照してください。

/usr/local/xl-gbs/xlsample/www の中、あるいは、ダウンロードしたソースコードを展開したディレクトリの中の、gateway を WWW サーバの所定の位置にコピーします。

```
$ cp -r .... /gateway hogehoge
```

などを行います。hogehoge は WWW サーバの公開用ディレクトリ中にある必要があります。今後、gateway/main.cgi gateway/main.html というファイルがありますが、これが HTTP-GATEWAY のアクセスページとなります。

## 2.4 gbview のセットアップ

LANDSCAPE の設定情報ディレクトリ、xlconf/std ( 通常のインストールでは、/usr/local/xl-gbs/xlconf/std ) にある、agent.definition.xml の内容を編集します。これにより、xl サーバは gbview を起動するようになります。xl サーバのデフォルトの状態では、

```
<!--
  <DefineAgent passwd="anonymous" dircheck="on">
    nichibun.ac.jp
    gbview
    user
  </CurrentEnvironment/>
  <Lambda Order="Applicative"> ()
    <Arguments> ^"^host ^agent ^mode ^user" </Arguments>
    ^"(+ "gbview xlscript/gbs/a_gbview.xml / " mode " " user)"
  </Lambda>
  </DefineAgent>
-->
```

のようにコメントアウトされているはずですが、このコメントアウト <!-- と、 --> をはずします。

この時点で「nichibun.ac.jp」は変えても変えなくても動作します。

## 2.5 httpagent の設定

XL サーバの httpagent 機能が有効になっているかを確認します。xlconf/std/httpagent.xml というファイルが存在する場合、これが有効です。詳しい XL サーバの httpagent 機能については、xlsv エージェントマニュアル [UNDEF REF (xlsv-httpagent)] を参照してください。

## 2.6 -

その後 xl サーバを再起動します。再起動は、root モードで、

```
# /etc/init.d/launch-xl stop
# /etc/init.d/launch-xl start
```

とします。詳しい方法は、xl サーバマニュアル [?] を参照してください。

シェルの ps コマンドで、プロセス xlsv, gbm, xlock が二つずつ、およびプロセス gbview が一つ立ち上がっていたら正常動作していると言えます。プロセス gbview は若干 (10 秒ほど) 遅れて立ち上げるので注意です。

## 2.7 HTTP-GATEWAY の設定

あらかじめダウンロードしておいたソースコードを展開します。ver.B.XX.tar.gz を適当なディレクトリに解凍します。ver.B.XX/www/gateway に HTTP-GATEWAY のすべてのコードがあります。これを apache などの WWW サーバの公開用ディレクトリにコピーします。

## 2.8 Apache の設定

「システム要件」(1.3 節) の項目でも取り上げましたが、コピーする先のディレクトリは、cgi が動作可能であること、また、perl スクリプトが利用可能である必要があります。それらが許可されていない場合は以下の設定を Apache に対して行います。

全ての拡張子.cgi のファイルのパーミッションを、HTTP 経由アクセスのユーザ ( Apache では通常 nobody ) が実行可能な形式にします。ファイルアップロード可能なウェブサイトを設置する場合には、さらに posted フォルダと edit/postedNum.txt の書き込みアクセスを可能にします。

```
chmod 755 *.cgi
chmod 755 edit/*.cgi
chmod 777 posted
chmod 666 edit/postedNum.txt
```

また、実行許可設定が行われていないディレクトリを設置先とした場合には、cgi の実行を許可する設定を行います。また、サーバから送信される HTML のデフォルト文字セットを UTF-8 に設定します。

( Apache での設定例 )

以下の A,B のどちらかの方法で設定を行います。

A. httpd.conf の中に以下の設定を行います。

```
<Directory " [cgi を設置したディレクトリ] ">
    Options ExecCGI
    AddHandler cgi-script .cgi
    AddDefaultCharset UTF-8
</Directory>
```

B. 対象ディレクトリに以下の内容の.htaccess ファイルを置きます。

```
Options ExecCGI
AddHandler cgi-script .cgi
AddDefaultCharset UTF-8
```

ウェブサーバ側の設定で.htaccess ファイルの使用が有効になっている事が必要です。

## 2.9 HTTP-GATEWAY と xl サーバの接続

HTTP-GATEWAY が接続する、gbview が稼働している xl サーバをコピーしたディレクトリ内の server.conf.pl に設定します。中身は、

```
$host = "[XL サーバのホスト名や IP アドレス]";
$path = "[参照 path 名]";
$port = [ポート番号];
1;
```

となっています。たとえば、以下のように設定します。

```
$host = "202.231.40.35";
$path = "/heian/map.cgi";
$port = 9100;
1;
```

[参照 path 名] とは、XL サーバが HTTP を受信するときの、gbview エージェントを識別するためのパスです。これは、xlscript/std/httpagent.xl の HttpAgent [UNDEF REF (HttpAgent)] タグに設定されています。これを共通にしておかないと、xslsv サーバ側で接続拒否されます。

[ポート番号] は、XL サーバのサービスポート番号です。XL サーバのデフォルトのインストールでは、8080 となっています。現在の設定状況を確認する場合は、ファイル、xlscript/std/agent.xl において、

```
<Define> ^ServerPort 8080 </Define>
```

を参照することによって確認することが出来ます。

## 2.10 最終確認

以上で基本的な設定は終わりです。

HTTP-GATEWAY の gateway/main.html を WWW ブラウザで参照してみます。gateway の部分はコピー先のディレクトリで変化しますので、そのディレクトリ名を入力してください。画面に、図 2.1 に示すような地図が現れ、上下左右、ズームなどの移動が出来ればデフォルトのインストールは終了です。



図 2.1: デフォルトインストール完了後の WWW ブラウザ

## 第3章 プロットデータ編集機能のインストール

### 3.1 概要

ここでは、gbview と HTTP-GATEWAY がインストールされているサーバにおいて、プロットデータの編集機能を有効にする手段を説明します。

### 3.2 この作業の前提となるシステム要件

すくなくとも前項 2 節が終わっていることが前提です。

また、編集対象のプロットデータの vct ファイルが gbview の動作しているサーバ上にある必要があります。

### 3.3 vct ファイルの選定

編集対象の vct ファイルを選びます。vct ファイルの詳細い内容については、[UNDEF REF (gb-data-structure)] を参照してください。ここでは、すでに存在し、COSMOS で閲覧出来ている vct ファイルとその座標データを設定する方法を示します。vct ファイルは空でも、何らか既にプロットデータが入っていてもかまいません。

選定した vct ファイルは COSMOS で閲覧する場合、そのファイルを直接指定することはありません。おそらく何らかの座標系ファイル ( 拡張子が.crd ) に vcct ファイルは貼付けてあり、その座標系ファイルを指定することによって COSMOS 上で閲覧出来る仕組みになっています。ここでは vct ファイルのファイル名および URL を sample.vct, xlp:/domainname:8080/samples/sample.vct とし、同様に座標系ファイルを、sample.crd , xlp:/domainname:8080/samples/sample.crd とします。この両者はマッピングされているはずですが、今回そのマッピングデータは関係ありません。

新規に vct ファイルを作り編集したい場合は、vct ファイル、crd ファイル、それらをマッピングする map ファイルを作った上で、COSMOS で閲覧可能であることを確認し、次のステップへ進めば良いです。crd ファイルは既存のすでに閲覧出来ているものを使い、ここに新たに vct ファイルを作成し追加することも出来ます。

### 3.4 vct ファイルの設定

選んだ vct ファイル、ここでは sample.vct に、編集範囲と、編集用のスタイルシートを追加します。例えば、編集前の vct ファイルは、以下のようになっています。

```
<?xl version="0.1" encoding="UTF-8"?>
<vector>
```

```

<meta>
  <bib xmlns:gb="xlp://isjhp1.nichibun.ac.jp:8080/gb_metadata">
    <gb:title data="福岡県郷土人形" type="text"/>
    <gb:subtitle data="福岡県郷土人形" type="text"/>
    <gb:creator data="東洋大学藤田研究室" type="text"/>
    <gb:content.period data="" type="W3C-DTF"/>
    <gb:issue.period data="2006-07-03" type="W3C-DTF"/>
    <gb:property data="plot" type="gb-prop"/>
  </bib>
  <file type="xl"/>
  <base-unit unit="degree"/>
</meta>
<mark img="http://www.zeta.co.jp/gbs/ajax/images/icon.gif"
  code="2560"
  name="2560"@valign="center"
  halign="center"
  transparent="#ffffff">

  <point>130.244080 33.567089</point>
</mark>
.....

```

ここに、編集範囲 edit-mr と、編集用の set-scheme を追加すると、

```

<?xl version="0.1" encoding="UTF-8"?>
<vector>
<meta>
  <bib xmlns:gb="xlp://isjhp1.nichibun.ac.jp:8080/gb_metadata">
    <gb:title data="福岡県郷土人形" type="text"/>
    <gb:subtitle data="福岡県郷土人形" type="text"/>
    <gb:creator data="東洋大学藤田研究室" type="text"/>
    <gb:content.period data="" type="W3C-DTF"/>
    <gb:issue.period data="2006-07-03" type="W3C-DTF"/>
    <gb:property data="plot" type="gb-prop"/>
  </bib>
  <file type="xl"/>

  <!-------
    編集範囲の設定   edit-mr タグによって、四隅の座標を与える。
  ----->

  <edit-mr>
    ((129.955948degree 32.965313degree )
     (131.347168degree 33.884868degree ))
  </edit-mr>
  <!------->

```

```

<base-unit unit="degree"/>
</meta>

<!-------
編集用のスタイルシート set-scheme
----->

<set-scheme scheme="general"
  onmap="xlp://gbs1.itakura.toyo.ac.jp:8080/style/onmap.xl"
  onmap.type="text/xl"
  card="xlp://gbs1.itakura.toyo.ac.jp:8080/style/card.xl"
  card.type="text/xl"
/>

<!------->

<mark img="http://www.zeta.co.jp/gbs/ajax/images/icon.gif"
  code="2560"
  name="2560"@valign="center"
  halign="center"
  transparent="#ffffff">

  <point>130.244080 33.567089</point>
</mark>

```

編集範囲の設定は、vct の座標系上の座標範囲です。vct の貼付けてある座標系ファイル ( .crd ) 上の座標系ではないので注意してください。また、編集用のスタイルシートは、基本的に URL xlp://gbs1.itakura.toyo.ac.jp:8080/style/onmap.xl および、xlp://gbs1.itakura.toyo.ac.jp:8080/style/card.xl のみしか使えません。ここにある文字列をそのままカットアンドペーストすることをお勧めします。カットアンドペーストする文字列は以下の通りです。

```

<set-scheme scheme="general"
  onmap="xlp://gbs1.itakura.toyo.ac.jp:8080/style/onmap.xl"
  onmap.type="text/xl"
  card="xlp://gbs1.itakura.toyo.ac.jp:8080/style/card.xl"
  card.type="text/xl"
/>

```

書き換えが終わったら必ず、

```
$ xl makefile.xl - -
```

を実行しましょう。

### 3.5 gbview の条件レイヤ設定確認

httpagent.xml の gbview の設定を確認します。編集対象の vct が LOCALBASE で閲覧可能になっているかどうかを確認します。sample.vct を直接的に確認すること出来ません。vct ファイルが貼付けてある座標系、xlp://domainname:8080/samples/sample.crd が閲覧可能になっているかを確認する必要があります。そのポイントとして、gbview 設定の Condition 要素の中に、xlp://domainname:8080/samples/sample.crd がヒットするための条件がセットされているかということにあります。例えば、

```
<URL>
  xlp://domainname:8080/samples/sample.crd
</URL>
```

というように直接的に URL が指定されていれば問題はありません。その他にも時代や gb-property による検索などで、間接的に閲覧可能になっている場合もありますので、注意が必要です。もし、閲覧可能になっている場合は、3.7 節へ進みましょう。閲覧可能でなかった場合は、すぐ次のステップに進みます。

httpagent.xml の中の gbview の設定は、

```
<HttpAgent path="/gbgate/main.cgi"
  remote="xlp://localhost:8080/@gbview/">
  <HTTPSetup type="raw">
    ....
  </HTTPSetup>
</HttpAgent>
```

という要素の部分です。remote="xlp://localhost:8080/@gbview/" がローカルホストの gbview を駆動していることを示しています。

### 3.6 gbview の条件レイヤの設定

sample.crd および sample.vct が閲覧可能となるための条件式をセットします。時代や gb-property で検索するなど複雑な検索条件の設定方法もありますが、たとえば、以下のように URL で直接的に設定すれば確実です。

```
<URL>
  xlp://domainname:8080/samples/sample.crd
</URL>
```

これを含めた全体の設定は以下のような形になります。

```
<Condition><quote>
```

```

<query qtype="URL" active="on" id="11">
  <URL>
    xlp://domainname:8080/samples/sample.crd
  </URL>
  <URL>
    xlp://isjhp2.nichibun.ac.jp:8080/kokudo20000/coord/00.crd
  </URL>
</query>
</quote></Condition>

```

条件式には、HTTP-GATEWAY から参照する識別子をつける必要があります。上記の例では id="11" です。この数字は他の条件式と重複してはいけません。重複していないことを確認してください。

### 3.7 gbview の座標系識別子の設定の確認

httpagent.xml の中の、座標系識別子の定義要素、Coordinate に xlp://domainname:8080/samples/sample.crd の定義があるかを調べます。Coordinate 要素については、「gbview エージェント・リファレンス・マニュアル」[1] の「HTTPSetup:Coordinate (座標識別子定義)」を参照してください。もし、

```

<Coordinate> 10
  xlp://domainname:8080/samples/sample.crd
</Coordinate>

```

のような一行がある場合、この設定に編集用の設定を書き加えます。

```

<Coordinate> 10
  xlp://domainname:8080/samples/sample.crd
  xlp://domainname:8080/samples/sample.vct
  /home/gbs-user/public/xldocs/samples/sample.vct
</Coordinate>

```

最初の文字列は、閲覧時に指定される座標系ファイル、次が、編集対象となる vct ファイルです。最後のパスは、そのファイルが実際にサーバ上に存在する位置を絶対パスで与えます。

gbview は編集対象ファイルへ書き込むとき直接ファイルに書き込むため、gbview が動いているサーバ上に編集対象ファイルはないといけません。

xlp://domainname:8080/samples/sample.crd の座標識別子の設定が無かった場合は、上記例のように新たに Coordinate 要素を追加してください。その場合、識別子、上記の例では「10」が他の座標識別子と重複しないように注意してください。

### 3.8 gbview の再起動

gbview を再起動します。現在のところ gbview の再起動は GLOBALBASE サーバを再起動するしかありません。

```
$ /etc/init.d/launch-xl stop
$ ps -fA | egrep gbview
..... gbview が終了しているか確認 .....
$ /etc/init.d/launch-xl start
```

GLOBALBASE サーバの起動 / 停止のスクリプトは機種によって若干こととなります。上記は、Linux, FreeBSD, Solaris のコマンドです。詳しくは、「LANDSCAPE スタートアップ・マニュアル [4]」を参照してください。

### 3.9 HTTP-GATEWAY の設定変更

基本的な考え方として、閲覧機能のみの設定状態である client\_conf.xml の内容を、サンプルディレクトリ xlsamples/www/gateway/client\_confs/client\_conf2.xml の内容へ移行すればよい。

閲覧機能に加えプロットデータ編集機能を立ち上げるためには、

1. プロットデータが閲覧出来るように、レイヤの追加を行うこと。
2. 編集対象の vct ファイル選択メニューを追加すること。

の2点を行います。特に2番目の編集対象の vct ファイル選択メニューは新しいタグ、`editableVctCtrl` を利用しなければなりません。client\_conf2.xml のサンプルをコピーし、それを編集することをお勧めします。特に `htmlId` を変更することは、予期せぬ現象を招くのでサンプルを間違いなくコピーする必要があります。

タグの `htmlId` は client\_confs ディレクトリのサンプルと一致していること。むやみに変更すると予期せぬ現象を招きます。

### 3.10 HTTP-GATEWAY の設定変更 (レイヤの追加)

HTTP-GATEWAY の client\_conf.xml を編集し、gbview で設定した条件式、座標系が閲覧可能にします。HTTP-GATEWAY では、`layerCtrl` 要素によって、gbview 側の条件式を参照します。[UNDEF REF (layer-setup)] の設定に従い、11 番の例やが設定されているかを確認してください。例えば以下ようになります。

```
<layerCtrl htmlId="layers1">
  <layer name="現代地図" id="1" visible="true">
    <desc>現代の地図です</desc>
  </layer>
<!-------
追加分
----->
```

```

        <layer name="編集対象のプロットデータ" id="11" visible="true">
            <desc>編集対象のプロットデータです</desc>
        </layer>
    </layerCtrl>

```

すでに編集対象の座標系ファイルおよび vct ファイルが閲覧可能になっている場合は layerCtrl を変更する必要はありません。

### 3.11 HTTP-GATEWAY の設定変更 (vct ファイル選択メニューの追加)

次に同様 client\_conf.xml の編集対象の vct を選択する選択メニューの追加を行います。で説明されている、editableVctCtrl 要素以下のみで十分です。editableVct 要素一つが、コンボボックスで選択出来る、編集可能な vct の一つに対応します。information 要素は、この editableVct 以下に入り、各 vct ごとに別々の入力画面を表示する事が出来ます。

```

<editableVctCtrl htmlId="editableVctSelect1" >
    <editableVct active="true" vctId="2" name="sample.vct プロット">
        <mark img="images/icon.gif" transparentColor="0x3FFFFFFF" />
        <information scheme="general">
            <field name="県名" visible="off" media="off" />
            <field name="地区名" visible="off" media="off" />
            <field name="分類" visible="off" media="off" />
        </information>
    </editableVct>
    <editableVct vctId="3" name="福島用プロット">
        <mark img="images/icon.gif" transparentColor="0x3FFFFFFF" />
        <information scheme="general">
            <field name="県名" visible="off" media="off" />
            <field name="地区名" visible="off" media="off" />
            <field name="分類" visible="off" media="off" />
        </information>
    </editableVct>
</editableVctCtrl>

```

### 3.12 最終確認

以上の設定を行い、HTTP-GATEWAY の gateway/edit/main.html を WWW ブラウザで参照してみます。gateway の部分はコピー先のディレクトリで変化しますので、そのディレクトリ名を入力してください。画面に、図 3.1 に示すような画面が現れることを確認します。

また、ズームインしていき、sample.vct プロットのデータが現れることを確認し、編集用ベクタメニューで「sample.vct プロット」を選択したときに、問題なくプロット出来ることを確認します。プロットの仕方は、「LOCALBASE ユーザインタフェース・マニュアル [5]」を参照してください。

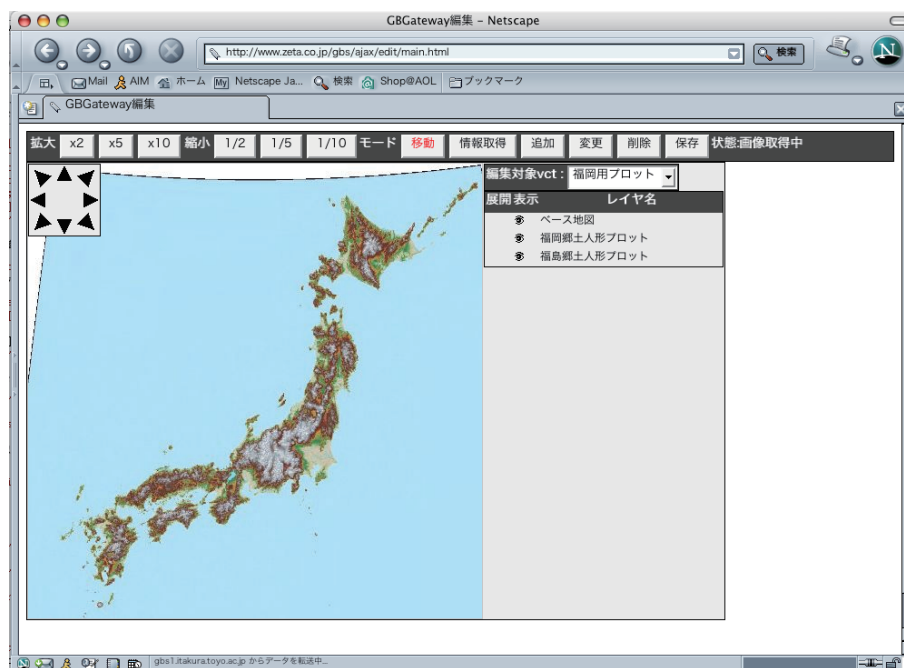


図 3.1: インストールされたプロット編集画面

## 第4章 複数の異なる設定のHTTP-GATEWAYとgbviewをつなぐ方法

### 4.1 概要

LOCALBASE を立ち上げると、異なった設定の様々な地図のサイトを作成するという要求が生まれてきます。毎回異なった設定のために複数の gbview エージェントを挙げるということはサーバにとっても負担です。そのために、一つの gbview エージェントで、複数の HTTP-GATEWAY の要求を受ける設定が必要となります。これは、xslv の HTTP エージェントと機能 [UNDEF REF (xslv-http)] に含まれる、エージェントのエイリアス機能を使います。

### 4.2 この作業の前提となるシステム要件

LOCALBASE の閲覧機能が既に動いていることを前提とします。また、HTTP エージェントのエイリアス機能には、ver.B.b11 以降の gbview が必要です。ver.B.b10 以前の gbview では対応していません。

### 4.3 現在の設定の確認

xlconf/std/httpagent.xl の中身を確認します。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS" ?>

<HttpAgent path="/gbgate/main.cgi"
  remote="xlp://localhost:8080/@gbview/">
  <HTTPSetup type="raw">
  <Coordinate> 10
    xlp://isjhp2.nichibun.ac.jp:8080/kokudo20000/coord/00.crd
  </Coordinate>

  <Condition><quote>
    <query qtype="URL" active="on" id="1">
      <URL>
        xlp://isjhp2.nichibun.ac.jp:8080/kokudo20000/coord/00.crd
      </URL>
    </query>
  </quote></Condition>
  <Cache dir="http://localhost:8080/gbgate/main.cgi?
    t=10_a_766323.125000_1195876.125000_0_0.000291
    &amp;l=1[1]&amp;s=500_400" generate="3"/>
```

```
</HTTPSetup>
</HttpAgent>
```

のように、一つのエージェント gbview を起動する設定があることを確認してください。実際に gbview がプロセスとしても立ち上がっていることを確認してください。この設定の HttpAgent [UNDEF REF (xslv-HttpAgent)] という命令は、/gbgate/main.cgi というパスに対して、xlp://localhost:8080/@gbview/を立ち上げ、要素として指定されている、「gbview エージェント・リファレンス・マニュアル」[1]の「HTTPSetup (HTTP 動作定義環境)」という設定をこの gbview へ送り込むことを示しています。

## 4.4 新しい設定の追加

ここで新しい設定を追加します。パス/gbgate2/main.cgiを追加しました。

パスを追加する場合、「gbview エージェント・リファレンス・マニュアル」[1]の「HTTPSetup:Cache (キャッシュフレーム定義)」タグに dir 属性もそれにあわせてパス名を変更していることに注意してください。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS" ?>

<HttpAgent path="/gbgate/main.cgi"
  remote="xlp://localhost:8080/@gbview/">
  <HTTPSetup type="raw">
    <Coordinate> 10
      xlp://isjhp2.nichibun.ac.jp:8080/kokudo20000/coord/00.crd
    </Coordinate>

    <Condition><quote>
      <query qtype="URL" active="on" id="1">
        <URL>
          xlp://isjhp2.nichibun.ac.jp:8080/kokudo20000/coord/00.crd
        </URL>
      </query>
    </quote></Condition>
    <Cache dir="http://localhost:8080/gbgate/main.cgi?
      t=10_a_766323.125000_1195876.125000_0_0.000291
      & l=1[1]& s=500_400" generate="3"/>
  </HTTPSetup>
</HttpAgent>

<HttpAgent path="/gbgate2/main.cgi"
  remote="xlp://localhost:8080/@gbview/">
  <HTTPSetup type="raw">
    <Coordinate> 10
      xlp://isjhp2.nichibun.ac.jp:8080/kokudo20000/coord/00.crd
```

```

</Coordinate>

<Condition><quote>
  <query qtype="URL" active="on" id="1">
    <URL>
      xlp://isjhp2.nichibun.ac.jp:8080/kokudo20000/coord/00.crd
    </URL>
  </query>
</quote></Condition>
<Cache dir="http://localhost:8080/gbgate2/main.cgi?
  t=10_a_766323.125000_1195876.125000_0_0.000291
  &amp;l=1[1]&amp;s=500_400" generate="3"/>
</HTTPSetup>
</HttpAgent>

```

## 4.5 エイリアスの設定

前ステップのまま、サーバを再起動すると、gbview は二つ立ち上がることになります。これを単一の gbview とするためには、/gbgate2/main.cgi の設定にエイリアス設定をします。以下の例がそれです。alias という属性を HttpAgent に追加しました。これは、/gbgate2/main.cgi は /gbgate/main.cgi と同一のエージェントに結びつけるという設定です。この設定により、/gbgate2/main.cgi の設定情報 ( HttpAgent の要素として定義されている情報) も /gbgate/main.cgi と同じ gbview エージェントへ送り込まれます。

一方、HTTP のリクエストがあるたびに xlsx によって、常にどの設定を経由してきたという情報が付加されるので、gbview 側では、その情報により、設定情報を切り分けて対応することが出来ます。

```

<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS" ?>

<HttpAgent path="/gbgate/main.cgi"
  remote="xlp://localhost:8080/@gbview/">
  <HTTPSetup type="raw">
  <Coordinate> 10
    xlp://isjhp2.nichibun.ac.jp:8080/kokudo20000/coord/00.crd
  </Coordinate>

  <Condition><quote>
    <query qtype="URL" active="on" id="1">
      <URL>
        xlp://isjhp2.nichibun.ac.jp:8080/kokudo20000/coord/00.crd
      </URL>
    </query>
  </quote></Condition>
  <Cache dir="http://localhost:8080/gbgate/main.cgi?
    t=10_a_766323.125000_1195876.125000_0_0.000291
    &amp;l=1[1]&amp;s=500_400" generate="3"/>

```

```

    </HTTPSetup>
</HttpAgent>

<HttpAgent path="/gbgate2/main.cgi"
  alias="/gbgate/main.cgi">
  <HTTPSetup type="raw">
  <Coordinate> 10
    xlp://isjhp2.nichibun.ac.jp:8080/kokudo20000/coord/00.crd
  </Coordinate>

  <Condition><quote>
    <query qtype="URL" active="on" id="1">
      <URL>
        xlp://isjhp2.nichibun.ac.jp:8080/kokudo20000/coord/00.crd
      </URL>
    </query>
  </quote></Condition>
  <Cache dir="http://localhost:8080/gbgate2/main.cgi?
    t=10_a_766323.125000_1195876.125000_0_0.000291
    &amp;l=1[1]&amp;s=500_400" generate="3"/>
  </HTTPSetup>
</HttpAgent>

```

## 4.6 GB サーバの再起動

GB サーバを再起動します。以下は、Linux の場合の再起動方法ですが、各マシンごとについては、「LANDSCAPE スタートアップ・マニュアル [4]」を参照して確かめてください。

```

# /etc/init.d/launch-xl stop
# ps -fA | egrep gbview
..... gbview が確実に終了していることの確認。
# /etc/init.d/launch-xl start

```

## 4.7 HTTP-GATEWAY の設定の複製

新しいゲートウェイのために、gbview の設定をそのままコピーしエイリアスを作ったのであれば、HTTP-GATEWAY も現在稼働している物をそのまま別のディレクトリにコピーするのが良いでしょう。コピーしたものの、server\_conf.pl の中身は\$path のみを変更すれば接続出来るはずです。たとえば以下のように設定します。

```

$host = "202.231.40.35";
$path = "/gbgate2/main.cgi";

```

```
$port = 9100;  
1;
```

## 4.8 最終確認

新しいゲートウェイのメインページ、gateway/main.cgi をブラウザでアクセスし正常に閲覧出来ることを確認します。

## 関連図書

- [1] 森洋久. gbview エージェント・リファレンス・マニュアル. GLOBALBASE PROJECT, 2006.
- [2] 中島智人, 森洋久. HTTP ゲートウェイ・リファレンスマニュアル. GLOBALBASE PROJECT, 2006.
- [3] 森洋久. COSMOS スタートアップ・マニュアル. GLOBALBASE PROJECT, 2006.
- [4] 森洋久. LANDSCAPE スタートアップ・マニュアル. GLOBALBASE PROJECT, 2006.
- [5] 中島智人, 森洋久. LOCALBASE ユーザインタフェース・マニュアル. GLOBALBASE PROJECT, 2006.

# 履歴

1. 日時: 2006-07-26  
マニュアル生成。(2006-07-26 版)
2. 日時: 2006-07-18  
著者: 森 洋久 反映されたバージョン: ver.B.b11  
このマニュアルを作成。中島(株式会社ゼータ)の書いたマニュアルに加筆。
3. 日時: 2006-07-23  
著者: 森 洋久 反映されたバージョン: ver.B.b11  
複数の異なる設定の HTTP-GATEWAY から、一つの gbview へアクセスするためのセットアップ方法の追加。
4. 日時: 2006-07-25  
著者: 森 洋久 反映されたバージョン: ver.B.b11  
htmlId の処理に関する記述を追加。